

ツナグト交流会について（令和7年度報告）

1 目的

アーティストやレポーター、活動団体、そしてコミュニティ文化課が互いに交流し、つながりを築く場を提供することを目的とする。令和7年度は特に「ツナグトを知る、お互いを知る」という基盤をつくることに重点を置き、相互理解を深めながら、アーティスト同士、アーティストと活動団体、またコミュニティ文化課との連携を少しずつ育むことを目指す。

2 概要

（1）開催日時
令和8年3月12日（木）10～11時半
（2）進行役
坂口 麻衣子氏
（3）参加者
38名

3 内容

ワーク
・仲間集めグループトーク 以下の3つのお題で、共通点がある人と4人組になり、自己紹介やトークをする。最後のお題に関しては、共通点がある人を探し出すのは難しいため、1、2回で同じグループになっていない人とグループになる。 ①好きな季節 ②苦手ないきもの ③芸術文化と聞いて思い出す言葉
・アーティスト活動紹介 アーティストとして参加申し込みした方のみ、自身の活動紹介をする。事前のアウンスで、自身の活動が紹介できるチラシや作品を持参してくるよう依頼した。
名刺交換・フリータイム
・自由時間とし、飲食しながら休憩、交流、名刺交換の時間とした。

4 アンケート（一部抜粋）

①参加してみてどうだったか。

- ・色々な活動をされている方と出会えて刺激をいただきました。
- ・自己紹介のワードをもとに共通のワードの方々とターンしながらお話できてよかった。
- ・私の積極性が足りず、いまいち繋がりが得られませんでした。
- ・話し合いが苦手。自由に話したかった。

②今後、交流会でやってみたいことの内容。

- ・もっとアーティストの方と会ってみたい
- ・今回のようなみなさんの活動を知り、交流と地域へのつながりができればと思います。
- ・実際にワークショップを体験してみたい。
- ・マッチングの会
- ・アーティストさんの実際の作品、演奏等聞いてみたい。

5 令和8年度に向けて

- ・令和8年度は前年度の課題を踏まえ、1時間半では時間が足りないとの回答多々あり、1時間半では予定していた全プログラムの実施はできなかったため、今年度は2時間～2時間半の実施とする。
- ・主体的に話したい人と、あまり話すのが得意ではない人で、二極化したため、主体的に話したい人からすれば、物足りなく感じたとの声があった。
- ・にぎわいづくり協議会から名簿の配布が必要であると指摘いただいた。申込時に「名簿として配布する際に記載してよいか」という項目を設け、次年度からは配布したい。

6 交流会の様子

